

社団法人日本腎臓学会
平成 23 年度定例総会
議事録

開催日時：平成 23 年 6 月 15 日(水)13：00～14：05

開催場所：パシフィコ横浜 メインホール

議 事

- ・社団法人日本腎臓学会理事長・第 53 回学術総会長 榎野博史 挨拶
- ・議事録署名人選出

1. 平成 21 年度事業報告承認の件
 - ・事業・庶務報告
 - ・各委員会報告
 - 「一般社団法人移行に伴う定款変更の骨子承認の件」
2. 平成 21 年度収支決算承認の件
3. 平成 21 年度業務・会計監査報告の件
4. 平成 22 年度事業計画案承認の件
5. 平成 22 年度収支予算案承認の件
6. 名誉会員・功労会員候補者承認の件
7. 新規・更新学術評議員候補者承認の件
8. 評議員候補者承認の件
9. 理事候補者承認の件
10. 監事候補者承認の件
11. 平成 25 年度(第 56 回)学術総会長承認の件
12. 平成 25 年度(第 43 回)東・西部学術大会長承認の件
13. 定款細則施行規定改訂の件
14. その他
 - ・平成 23 年度第 54 回学術総会長 佐々木 成 挨拶
 - ・平成 24 年度第 55 回学術総会長 富田 公夫 挨拶
 - ・名誉会員証授与
 - ・第 1 回上田賞授与
 - ・優秀論文賞・ベストサイテーション賞授与
 - ・大島賞授与(受賞講演は総会終了後 14：00～ メインホール)

・理事長挨拶

榎野博史理事長から、東日本大震災についてお悔みと学会員の協力に対する謝辞があった。大震災に際し、①日本透析医学会、日本透析医会と協議し、情報を透析医会のものに統一したこと、②本学会の評議員、学術評議員間で情報交換が可能な危機管理メールを開設したこと、③世界腎臓学会において募金活動を行ったこと、更に、支援のためのオークションが行われたこと、④日本腎臓財団の東日本大震災透析医療復興支援寄付金の事業に協力することなどの報告があった。また、厚生労働省健康局疾病対策課の中田勝巳課長補佐は異動となり、後任者と面談したことなどの報告があった。

・総会成立の確認

榎野博史理事長から、現在の正会員数は 8,911 名で、本日の出席者数は 202 名、委任状出席者数が 4,990 名で、合計 5,192 名、58.3 %の出席があり、定足数を満たし総会が成立している旨の確認があった。

・議長並びに議事録署名人の選出

出席正会員により、本総会の議長に榎野博史理事長が互選された。ついで、議事録署名人に議長の榎野博史理事長と総会出席者の富野康日己理事、渡辺 毅理事が選任された。

議事 1-1. 事業概要並びに庶務報告

守山敏樹幹事長から、平成 22 年度にご逝去された会員の報告があり黙祷を行ったあと、平成 22 年度に実施した事業として学術総会・東西部大会、出版関係、腎疾患に関する調査・検討、腎臓病対策についての普及・啓発・後援、国際交流、褒賞および研究業績の顕彰などについて概要の報告があった。

つづいて、平成 23 年 3 月 31 日現在の会員動向が報告された。正会員 8,911 名、名誉会員 59 名の合計 8,970 名、団体会員 28、賛助会員 44 の合計 72 団体である。また、専門科別および都道府県別の会員数、評議員数、学術評議員数の報告があった。

1-2. 編集委員会

木村健二郎委員長から編集委員会の報告および提案があった。

- 1) 「日本腎臓学会誌 (JJN)」 「Clinical and Experimental Nephrology (CEN)」 の投稿・査読・掲載状況の件 (報告事項)

CEN の平成 22 年度の投稿総数は 265 編と過去最高となり、採択率は 47.5 % であった。

- 2) 外国人査読者 Editorial Board 改定の件 (報告事項)

外国人査読者の見直しを行う。新規推薦者には、編集委員長より CEN と Case report 誌の Editorial Board 就任依頼を、従来の member には、引き続きの就任と Case report 誌への就任依頼をすることとした。なお、任期を 3 年に定めた。

- 3) 優秀論文賞選考結果 (報告事項)

下記 3 編の優秀論文と 2 編のベストサイテーション賞を選出した。

- ・ CEN Original: 蓮池由起子 (兵庫医科大学内科学腎・透析科) ほか
- ・ JJN 原著: 大津尚子 (杏林大学医学部薬理学教室) ほか
- ・ CEN Case report/JJN 症例報告: 金子修三 (筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系腎臓内科) ほか
ベストサイテーション賞
- ・ Review: 浅沼克彦 (順天堂大学医学部腎臓内科) ほか
- ・ Original: 永路正明 (福島県立医科大学第三内科) ほか

- 4) CEN Case Reports 創刊に伴う定款施行細則改定の件 (承認事項) 議事-10

CEN Case Reports 創刊に伴う定款施行細則改定の説明があり、これを承認した。

- 5) Clinical and Experimental Nephrology (CEN) 投稿規定改定の件 (承認事項) 議事-10

CEN Instructions for Authors 改定の提案があり、これを承認した。

- 6) CEN Case Reports 投稿規定の件 (承認事項) 議事-10

CEN Case Reports 誌の創刊に伴う、CEN Case Reports Instructions for Authors 新設の提案があり、これを承認した。

- 7) 掲載料改定に伴う JJN 投稿規定改定の件 (承認事項) 議事-10

JJN 掲載料見直しに伴う投稿規定改定の提案があり、これを承認した。

1-2. 学会あり方委員会

渡辺 毅委員長から学会あり方委員会の報告および提案があった。

- 1) 法人制度改革の件 (審議事項) 議事-1

一般社団法人への移行に伴う定款改定の骨子が提案され、審議の結果、下記のとおり承認された。

- (1) 代議員制ではなく現行通り会員総会制とする。
- (2) 会費は一律とする。
- (3) 定款および関連各細則については、今後、公益等認定委員会および文部科学省の指導により、変更がある。なお、修正後の最終案は、8 月の臨時理事会で審議し、平成 24 年度総会で承認を受ける。
- (4) 平成 24 年度総会で承認を受けた後に、平成 24 年度中に変更認可申請を行う。

- 2) 腎臓病療養指導師に関する件 (報告事項)

腎臓病療養指導士の制度設置に関して検討し、①CKD 概念と意義の普及、②厚生労働省の方針「今後の腎疾患対策のあり方について」でのコメディカル育成への期待、③戦略研究で培った基盤の活用、④各学会の資格認定とコメディカルの参画状況、⑤腎臓病療養指導士認定制度に対するコメディカルの期待、⑥厚生労働省の保険取載請求書「慢性腎臓病に対する適切な指導の推進」にみられる療養指導料の実現可能性などを総合的に判断した結果、以下のとおり検討を進める。

- (1) 腎臓病療養指導士制度について 2～3 年後を目途に導入する方向で検討する。
- (2) 組織は日本腎臓学会と別組織とし、日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会、日本栄養士会、保健師の会、日本臨床工学技士会、日本臨床検査技師会などに広く呼び掛け、賛同を得た他団体と共同で実施機関を設置し運営する。
- (3) 第 1 回定例理事会で基本方針が承認されたため、定款・規則、業務計画、会計案、組織案の検討に入る。

3) 新名誉会員候補者推薦の件(承認事項) **議事-6**

新名誉会員候補者として、石川 勲、北本 清、清水不二雄各功労会員が推薦され、全会一致で承認された。

4) 新功労会員候補者推薦の件(承認事項) **議事-6**

新功労会員候補者として、青柳一正以下 12 名が推薦され、全会一致で承認された。

5) 更新学術評議員選考の件(承認事項) **議事-7**

学術評議員で本年 5 年目の更新該当者として飯島一誠以下 81 名の推薦があり、全会一致で承認された。

6) 新規学術評議員候補者選考の件(承認事項) **議事-7**

新規学術評議員候補者として秋元 哲以下 35 名の推薦があり、全会一致で承認された。

7) 第 18 回(平成 23 年度)大島賞受賞者(報告事項)

- (1) 浅沼 克彦：順天堂大学 腎臓内科／富野康日己 推薦

「ポドサイト障害メカニズムの分子生物学的検討」

- (2) 佐藤 稔：川崎医科大学 腎臓・高血圧内科／柏原直樹 推薦

「慢性腎臓病の基盤病態、心血管病との関連機序としての血管内皮障害の関与の解明」

8) 第 1 回日本腎臓学会上田賞候補者推薦の件(報告事項)

第 1 回上田賞選考の結果、阿部 裕、新島端夫、杉野信博、尾前照雄 4 名が推挙された。

1-3. 専門医制度委員会

高橋公太委員長から専門医制度委員会の報告があった。

1) 平成 23 年第 19 回腎臓専門医試験(合否判定)の件(報告事項)

今回の受験者数は 232 名で、合格者は 225 名。不合格者は内科 6 名、小児科 0 名、泌尿器科 1 名の計 7 名、合格率は 96.9%であった。

2) 平成 23 年度腎臓専門医、指導医、研修施設の新規認定、更新の件(報告事項)

平成 23 年度腎臓専門医、指導医、研修施設の新規認定、更新について下記の報告があった。

	新規	更新	総数
腎臓専門医	225 名	1,052 名	1,277 名
指導医	76 名	412 名	488 名
研修施設	20 施設	228 施設	248 施設

3) 学会が承認する研究会の件(報告事項)

学会が承認する研究会として 8 研究会を認定した。

神奈川腎臓研究会、岩手腎疾患研究会、山陰腎疾患研究会、腎間質障害研究会、岡山腎疾患懇話会、腎と脂質研究会、兵庫県腎臓研究会、三多摩腎疾患治療医会

4) 第 20 回腎臓専門医試験問題作成と問題作成者への単位付与の件(報告事項)

本年度は共通問題と内科選択問題は基本領域が内科の専門医 2551 人、小児科選択問題は小児腎臓病学会評議員(腎臓専門医取得者)77 人、泌尿器科選択問題は基本領域が泌尿器科の専門医 244 人に作成依頼をする予定である。なお、問題を作成した専門医には 1 問作成につき 2 単位、2 問作成 4 単位を上限とし付与することとした。

5) 腎臓専門医カリキュラム改訂作業の件(報告事項)

腎臓専門医カリキュラム改訂作業にあたり、本年度受験者に対し経験症例数の実態調査アンケートを実施し

た。

6) 臨床研修医のための腎臓セミナーの報告および開催予定の件(報告事項)

平成 23 年 8 月 6~7 日(土・日), 新霞ヶ関ビル灘尾ホールにて第 13 回臨床研修医のための腎臓セミナーを開催する。なお, 世話人は横浜市立大学大学院医学研究科の梅村 敏先生である。

7) 腎臓専門医受験のためのセミナー開催の件(報告事項)

平成 23 年 6 月 17 日(金), パシフィコ横浜 会議センターにおいて腎臓専門医受験のためのセミナー開催を開催する。

8) 日本専門医認定制機構の会費及び負担金の件(報告事項)

日本専門医制評価・認定機構に, 平成 23 年度会費 20 万円, 負担金 331,800 円, 合計 531,800 円を支払う。

1-4. 渉外委員会

富野康日己委員長から渉外委員会の報告があった。

1) 医事委員会の件(報告事項)

(1) 平成 24 年度の内保連への提出の保険収載提案案件は, 「イヌリンクリアランスの生体検査としての診療報酬算定の適正化要望」, 「尿中マイクロアルブミン検査」の 2 件である。

(2) 内保連の提案で, 新たな診療報酬体系として, 内科特定診療という枠が検討されている。28 の内科疾患が選択され, 腎臓内科としては「難治性ネフローゼ症候群」, 「急速進行性糸球体腎炎」が採択された。現在, これらの疾患の保険点数を決定するための資料作りが急がれており, 現在, 関連医療機関に調査を依頼している。

2) 国際交流委員会の件(報告事項)

(1) 日中韓腎カンファランス

第 4 回日中韓腎カンファランスが, 平成 23 年 3 月 12 日に, 東京(会場: 都市センターホテル)で行われた。今回のテーマは「IgA Nephropathy」で, 日本からは遠藤正之先生(東海大学), 川村哲也先生(東京慈恵会医科大学), 鈴木祐介先生(順天堂大学)が講演した。第 5 回日中韓腎カンファランスは平成 24 年 3 月に北京で開催される予定である。

(2) APSN(アジア太平洋腎臓学会)

- ①平成 22 年 6 月 5 日~8 日の日程で, 韓国・ソウルで第 12 回 APCN が開催された。
- ②平成 22 年 6 月より富野康日己理事が APSN の President に就任した。
- ③2014 年(平成 26 年)の APCN の開催地に日本(東京)が決定した。

(3) CME 活動

CME 活動は APSN と連携して行っている。富野康日己理事が APSN の President に就任したため, 今後は日本腎臓学会と, より綿密な連携が可能になる。平成 22 年度は 4 回にわたりアジア諸国に講師を派遣した。

平成 22 年 5 月 20 日: インドネシア	重松隆先生(和歌山県立医科大学)
平成 22 年 8 月 7 日: タイ	鈴木祐介先生(順天堂大学)
平成 22 年 12 月 7-8 日: バングラディッシュ	安田 隆先生(聖マリアンナ医科大学)
平成 23 年 3 月 4-6 日: パキスタン	安田 隆先生(聖マリアンナ医科大学)

(4) AFCKDI 小委員会

- ①第 4 回 AFCKDI 総会が平成 22 年 6 月 4 日に第 12 回アジア太平洋腎臓学会のプレシンポジウムとして韓国ソウル市で開催された。日本腎臓学会は USD10,000 を発展途上国からの招待者の旅費として寄付した。
- ②第 6 回 AFCKDI 総会が平成 23 年 3 月 18, 19 日に中国広州市で開催された。

(5) JSN/ISN 連携強化委員会

- ①ISN-NEXUS-Kyoto 2010 の運営を, 榎野博史会頭, 秋澤忠男副会頭, 宮田敏男 ISN 理事の下で行い盛会であった。
- ②WCN2011 へのアブストラクト投稿と参加の奨励活動を行った。
- ③ISN-NEXUS-Kyoto 2010 の大成功を受けて, 国際腎臓学会より特別に日本にのみ出された若手向けのグラ

ントの公募，応募書類の集計，審査委員会による blind での審査，結果通知，ISN 本部との連絡などの事務手続きを行った。

④ISN 会員数増加国内キャンペーン活動として，日本腎臓学会学術総会でのブース出展と勧誘を行った。

(6) ISN 報告

①ISN の新体制が報告された。

②榎野博史理事長から，今回の理事改選では東アジアからの理事は中国に決定したことの報告と，選挙に際して学会員各位の協力に対し謝辞があった。

(7) WCN2011 における東日本大震災義援金

榎野博史理事長から，バンクーバーで開催された国際腎臓学会で東日本大震災義援金の募金活動を行い，集まった約 15 万円の寄付金については日本腎臓財団に寄付すること，また，会長招宴でオークションが行われ約 200 万円が義援金として本学会に寄贈されるとの報告があり，被災地域の会員施設に有効に配分することとした。

3) 腎と脂質国際シンポジウムご支援のお願い

平成 25 年 6 月 5～7 日に「腎と脂質国際シンポジウム」を開催するに際し，本学会として積極的に協力することとした。

1-5. 企画委員会

山本 格委員長から企画委員会の報告および提案があった。

1) 腎病理診断標準化委員会の件(報告事項)

(1) 腎臓病総合レジストリー活動

①本委員会は腎臓病総合レジストリー小委員会と合同で，本邦の腎症例の登録活動の推進，研究への応用，一次資料利用における規約の設定などを行った。

②2009 年年次統計報告を腎臓学会学術総会で行い，2007-2008 年統計を CEN に発表した。

(2) 病理 WG 活動(報告事項)

本委員会に設けられた，腎生検データベース構築病理ワーキンググループで，腎臓病総合レジストリーの登録内容の検証をするため，病理 WG の集計との比較検討を続けている。また，FSGS の実態と分類の再評価についての検討を進めている。

(3) 「腎病理診断標準化への指針」改訂版(報告事項)

上記改訂版を平成 22 年 9 月 1 日，上梓した。改訂版の名称は腎生検病理アトラス(Kidney Biopsy-Atlas and Text)「腎病理診断標準化への指針病理改訂版」とした。

(4) 腎病理夏の学校(報告事項)

平成 22 年 9 月 4 日，5 日の 2 日間にわたり，腎病理夏の学校を旭川にて開催した。今年もバーチャルスライドを使用して行い，好評であった。

(5) 学術総会における標準化委員会企画，腎病理企画(報告事項)

今年度の学術総会では，CME，委員会報告，腎生検コンサルテーション，コンサルテーション・レビューの 4 企画を実施した。

2) IgG4 関連腎症ワーキング(報告事項)

(1) 診断のためのアルゴリズムおよび診断基準の作成を行っている。また，診療指針論文草稿「Diagnostic criteria for IgG4-related kidney disease」が提示され検討を行った。

(2) 今までの登録組織像 28 例をバーチャルスライド化し，保存したポータブルハードディスクを委員に配布した。

3) 腎移植推進委員会の件(報告事項)

(1) 日本腎臓学会誌に腎移植患者の紹介に繋がる臨床的総説を掲載する。

(2) 腎不全の治療選択小冊子は 4 年間で 35 万部以上を配布した。今後は，腎移植に必要な費用の説明，HD の開始時期，PD の開始時期，先行的腎移植などを整備し，平成 24 年度に発刊の予定である。

(3) 内科医のための腎移植研修について，日本臨床腎移植学会と連携し制度の検討を行っている。

(4) 腎移植後透析再導入基準の作成を，日本臨床腎移植学会のガイドライン作成委員会に検討を依頼する。

4) 男女共同参画委員会の件(報告事項)

- (1) 第 53 回学術総会においてシンポジウム「男女共同で進める腎臓学のキャリアプラン」を開催した。
- (2) 第 40 回東部学術大会においてパネルディスカッション「女性医師の勤務継続のために～自治医科大学の取り組み～」を開催した。
- (3) 第 40 回西部学術大会においてパネルディスカッション「腎臓学への誘い：キャリア形成を多方面から支える」を開催した。
- (4) パンフレット「腎臓学への誘い」を、全国のキーパーソンに配布した。
- (5) 腎臓専門医のワークライフバランスに関するアンケートを行い、学術総会で集計結果を発表した。
- (6) 第 12 回臨床研修医のための腎臓セミナーにおいてシンポジウム「腎臓学を後期研修先に選びませんか？」を開催した。
- (7) 平成 23 年度から武曾恵理委員長から内田啓子委員長への交代を決定した。

5) 尿中バイオマーカーのパネル化に関する小委員会の件(報告事項)

- (1) 平成 23 年 3 月 21 日～22 日にアジア地域における尿バンクング・ネットワーク形成のためのキックオフ・ワークショップの開催することになっていたが、3 月 11 日の東日本大震災により中止した。
- (2) 尿中バイオマーカーパネル化に関する小委員会は前述のワークショップの充実と尿バンク機能をさらに推進するため、委員を補充した。

6) 若手腎臓学研究者育成プログラムの件(報告事項)

- (1) 将来の腎臓病の研究の発展のためには腎臓学の基礎的研究者の育成は重要である。そのため、若手医師、若手研究者に腎臓学の基礎研究に接する機会を提供する。
- (2) 日本腎臓学会に基礎腎臓学研究者育成小委員会を設置し、全国に数カ所の基礎腎臓研究教育機関を推薦し、基礎腎臓研究者や臨床研究に基礎腎臓学の応用を目指す研究者が年間数名、数カ月間、数カ所、それらの機関に訪問し、教育、研究する機会を提供する。
- (3) 希望者は、基礎腎臓学研究者育成小委員会に申請し、審査を受けて、選抜されると、教育、研究のための奨学金が与えられる。また、教育・研究機関には消耗品費が支払われる。年間総予算は 300 万円とする。
- (4) 基礎腎臓学研究者育成小委員会は企画委員会が推薦する基礎腎臓学研究者数名で構成される。
以上について、具体的な計画案を作成し 8 月に開催する臨時理事会に提案する。

6) 腎臓病に関する統合データベースの構築と公開の件(報告事項)

- (1) 現在、腎臓病に関する多様な情報がさまざまなデータベースとして分散しており、腎臓病の臨床医、基礎研究者が個々にそれら分散している情報を入手するのは非効率である。そこで国内外の腎臓病に関する情報、データベースを統合し、日本の臨床医・基礎研究者がそれらにアクセスしやすいウェブサイトを日本腎臓学会のホームページに構築することを目指す。
- (2) 基本的データベースの構築、収集を行い、その公開を推進する腎臓病知的データベース構築小委員会を設ける。小委員会は企画委員会が推薦する数名で構成される。
以上について、腎臓ネットの業務と重複することの懸念があるため、再調整を行う。

1-6. 広報委員会

中尾俊之委員長から広報委員会の報告あった。

1) 広報委員会活動報告の件(報告事項)

(1) ホームページによる広報

- ①平成 22 年度 1 年間のアクセス数は、570,651 件(前年 504,711 件)、1 カ月平均、47,554 件(前年 42,059 件)、1 日平均、1,563 件(前年 1,382 件)であった。
- ②平成 22 年度の「他学会・研究会その他の広報・掲載」件数は、他学会、研究会案内 19 件、公募情報 3 件、官公省からの通知等 9 件であった。
- ③海外向け英文ニュースは、4 月現在#251 となった。また、アクセス数は年間 1,915 件(前年の年間 1,941 件)、1 カ月平均 159 件(前年 161 件)であった。
- ④男女共同参画委員会のページレイアウトについて、男女共同参画委員会と公開に向けて作業を行っている。

(2) Eメールによる広報

- ①平成 22 年度 1 年間の広報メール配信数は、一般会員 61 通、評議員・学術評議員 74 通、キーパーソン：1 通であった。
- ②一般会員のメーリングリスト登録数増員対策について、平成 23 年度より学会誌送付時にメーリングリスト登録の案内(年 2 回)を封入することとした。また、HP にて随時メールで受付を行っている。なお、現在のメーリングリスト登録数は、一般会員 626 名、法人評議員 193 名、学術評議員 386 名である。
- (3) 広報委員会連絡委員(キーパーソン)に「腎臓学への誘い」を送付し、学生・研修医に配布を依頼した。

2) その他

1-7. 総務委員会・倫理委員会

五十嵐 隆委員長から総務委員会・倫理委員会の報告あった。

1) 総務・倫理合同委員会(報告事項)

- (1) 平成 22 年 10 月 18 日に第 1 回総務・倫理合同委員会を開催し、「日本腎臓学会が中心となってエリスロポリチン製剤の腎保護作用と安全性に関する臨床試験を実施する申請案」について検討した。その結果、日本腎臓学会が主導する臨床試験の重要性については認識するが、一製薬会社の製品について日本腎臓学会が主導して研究を行うことに倫理的問題があると考えられるため、ふさわしくないと判断した。

2) 総務委員会(報告事項)

平成 22 年度のガイドライン転載許可件数

ガイドライン種別	申請件数	許諾件数		否
		変更なし	修正	
CKD 診療ガイド 2009	69	21	47	1
EBM に基づく CKD 診療ガイドライン	20	11	9	0
CKD 診療ガイド高血圧編	12	7	4	1
その他	15	4	11	0
合計	116	43	71	2

3) 倫理委員会(報告事項)

- (1) 前述の「日本腎臓学会が中心となってエリスロポリチン製剤の腎保護作用と安全性に関する臨床試験を実施する申請案」について検討した。
- (2) 次回倫理委員会において、「慢性腎臓病に関する普及啓発のあり方に関する研究」ほか 1 件の審査を予定している。

1-8. 学術委員会

堀江重郎委員長から学術委員会の報告があった。

1) 日本肥満学会「肥満症診断基準 2011」への意見提出(報告事項)

日本肥満学会からの依頼により内容を検討し、意見をまとめ回答した。

2) 「CKD 診療ガイド 2009」増刷時の薬剤部分改修について意見提出(報告事項)

下記薬剤は以下の標記に変更することを学術委員会の意見として提出することとした。

「腎機能正常者と同量を慎重投与」

- ・レニン阻害薬 ラジレス
- ・ α グルコシダーゼ阻害薬
- ・DPP-4 阻害薬 エクア

「腎機能正常者と同量を慎重投与・無尿時には禁忌」

- ・利尿薬(V2 受容体拮抗薬) サムスカ

3) 「初心者のための腎臓電顕図譜」復刻版作成の件(報告事項)

第 34 回学術総会で記念出版された「初心者のための腎臓電顕図譜」の復刻版を作成することとした。

4) 「腎疾患患者の妊娠—診療の手引き—」改訂版の件(報告事項)

平成 19 年に日本腎臓学会で出版しているが、その後エビデンスも多く出ているため、エビデンスに基づくガイドラインとして、産科・小児科の委員も参加いただきコンセンサスを得て改定版を作成する。なお、CKD ガイドライン改訂版では、妊娠について扱わないこととした。

5) CKD 診療ガイドライン改訂委員会報告(報告事項)

福井次矢先生(聖路加国際病院長)にアドバイザーとして参加いただき委員会を開催した。①Clinical Question 形式とすること、②厚労省研究班で作成するガイドラインとの整合性を図ること、③コアメンバーで Clinical Question をまとめ、その後サブグループを作り Question に答えるためのエビデンスを集め、評価し執筆することとした。

6) 慢性腎臓病に対する食事療法基準作成委員会報告(報告事項)

鈴木芳樹先生を委員長に、日本糖尿病学会、日本透析医学会、日本小児腎臓病学会および管理栄養士など外部委員も決定し、第 1 回委員会を 6 月に開催することになり、平成 24 年末までに「慢性腎臓病に対する食事療法基準 2012 年版」として日腎誌に掲載する予定で進行する。

7) CKD 診療ガイド改訂版作成委員会報告(報告事項)

KDIGO の発表に合わせた改定が急がれるため、平成 24 年度第 55 回学術総会までに改定版を作成する予定で、今井圓裕理事を委員長として委員会を設置した。

8) 血尿診断ガイドライン改訂委員会報告(報告事項)

堀江重郎理事を委員長に、本学会と日本泌尿器科学会、日本小児腎臓病学会、日本臨床検査医学会の委員による合同委員会を設置した。また、Minds から長谷川友紀先生、日本医師会から三上裕司常任理事にも参加いただくことになった。

1-9. 慢性腎臓病対策委員会

今井圓裕委員長から慢性腎臓病対策委員会の報告があった。

「臨床研究推進委員会」

1) 疫学研究小委員会(報告事項)

Cin 簡易法と現行法の同等性を検証し、若干のみ簡易法では Cin が低くなるが臨床的には同等と考えてよい。中国と JSN の共同研究で Cin と血漿 DTPA クリアランスの同時測定を行い、DTPA クリアランスが約 20% 高値となることが明らかとなった。今年度は腎移植ドナーの GFR プロジェクト、Cys-C に基づく GFR 推算式の作成などに取り組む。Cys-C は 8 月に国際標準化が完了の予定である。Cys-C は腎摘ラットへのヒト Cys-C 静注試験結果などより非腎のクリアランスが予想されるが、坦癌患者等、筋肉量の低下した症例では有効性が高いと考えられる。

2) 戦略研究小委員会(報告事項)

A 群も B 群も順調に活動が進んでいるが、HD 導入の死亡も、当初の見積もりよりは少なく、より長期の観察が必要である。東日本大震災の被災地域の医師会では影響が懸念される。戦略研究は今年度で終了予定であるが、モニタリング委員会の答申もあり、厚労省に継続を要望している。

3) 進行性腎障害小委員会(報告事項)

平成 22 年度までに IgA 腎症、ネフローゼ症候群、RPGN、多発性嚢胞腎の新規受診者数を推計し、4 疾患のガイドライン並びにそのダイジェスト版を作成した。富野班より継続している臨床研究の成果も上がりつつあり、IgA 腎症では扁桃摘の効果に関する RCT は目標の 80 例を達成し、成果をまとめている。IgA 腎症の予後予測では前向きコホート研究が進行中である。今年度の予定として、DPC を活用した疫学調査、J-RBR の二次研究を充実させ、エビデンスに基づくガイドラインを作成する。臨床研究では NEPTUNE など国際的に類似した研究と連携し、基盤研究を設けた。市民への啓発では市民公開講座に加えて HP を開設予定である

4) 検尿の効果検証小委員会(報告事項)

本委員会は、特定健診で検尿が無くなりそうになったことに端を発して活動しており、科研費研究渡辺班で特定健診における検尿や Cr 測定の意義を検証してきた。残念ながら本年度の継続申請が不採択となったため、木村班と連携して研究を継続していく。木村班で保健師さんが参加することで、透析などのアウトカムが得やすい

と期待される。特定健診のデータ管理については東大の大橋先生の協力が継続して得られる。マルコフモデル解析より、universal screening としての検尿の費用対効果は 1 QALY (quality adjusted life year)あたり約 100 万円, Cr 測定を加えても約 800 万円と試算され、健診の有効性が示された。その他にも特定健診データを利用した複数の研究が進行中であり、その論文化を進める。

5) 臨床研究推進委員会(報告事項)

J-KDR を利用した研究の新規申請は無い。J-RBR/KDR やその二次研究などで複数の説明書同意書がある問題につき、名古屋大学では包括的な研究として申請し、1 枚の同意書として出来ている。診療現場の負担軽減が期待されるため、JSN の倫理委員会に諮る予定である。JSN として取り組むべき臨床研究を募集している。

6) 腎臓病総合レジストリー小委員会(報告事項)

J-RBR は平成 22 年度末で約 12,000 件の登録があり、annual report を CEN に発表した。J-RBR/KDR を利用した 6 つの二次研究が進行している。ESKD への進行につき、日本透析医学会と合同ワーキングで協議を行っている。腎生検時に患者さんに渡したカードを透析導入や腎移植時に回収するものだが、実施には相当の困難がある。継続して協議を進めていく。

7) その他

①末期腎不全患者数調査協力依頼の件(報告事項)

日本透析医学会腎不全対策委員会および末期腎不全ワーキンググループから、本学会に末期腎不全患者数調査の協力依頼があり、本学会としても日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本小児腎臓病学会と協力して調査にあたることとした。

また、5 月下旬に厚生労働省において「腎臓のレシピエント適応基準」についての会議が開催された。本学会から榎野博史理事長、両角國男腎移植推進委員会委員長、西 慎一同委員が出席するに際し、あらかじめ本学会内の意見を集約しておく必要があるため、今井圓裕慢性腎臓病対策委員会委員長に取りまとめを依頼した。

「学際的展開委員会」

1) 日本慢性腎臓病対策協議会(報告事項)

J-CKDI では都道府県の代表を任命し、東部・西部学術大会において代表者会議が開催された。各都道府県代表を中心に世界腎臓デーイベントや CKD 啓発講演会などが多数実施されるなど、各地域における CKD 対策が推進されている。J-CKDI は JSN よりの助成金を得て、各都道府県の CKD 対策を支援しており、平成 22 年度は 13 都道府県に各 20 万円の助成を行った。世界腎臓デーにあわせ、CKD 啓発講演会を主催、Kidney Walk を共催した。厚労省主催のイベントに参加、CKD 啓発イベントを行った。HP を拡充し、厚労省科研費研究秋澤班の協力により、CKD 啓発、診療連携ツールのダウンロードページを設けた。平成 23 年度は引き続き各都道府県の CKD 対策を推進し、HP の拡充、メディアでの CKD 報道の獲得を目指した活動などを行う。

2) 糖尿病性腎症合同委員会(報告事項)

肥満の DM 腎症患者のエネルギー量として 25~35 kcal/kgBW/day を答申したが、さらに協議が続いている。厚労省科研費研究和田班では registry に 295 例の DM 腎症が登録された。病理やバイオマーカーの研究が進行している。DM 対策推進会議 WG では尿中アルブミン実態調査票が作成され、糖尿病治療のエッセンスが発刊された。糖尿病性腎症合同委員会のオブザーバー参加基準が協議された。

3) 薬剤師との合同委員会(報告事項)

薬剤師に対する CKD 啓発、処方箋への eGFR 記載、腎・透析専門薬剤師制度などにつき協議を進めている。

4) 腎臓病患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン委員会(報告事項)

日本医学放射線学会とガドリニウム造影剤についてのガイドラインが作成され、日本循環器学会を加えてヨード系造影剤についてもガイドラインを作成する。Clinical Question 形式とし、定義、疫学、リスク評価、予防法などについて作成予定である。

1-10. 学術総会企画委員会

1) 学会主導の学術総会

(1) 第 53 回学術総会(榎野博史総会長)から、プログラムおよび財務面を含め全面的に学会主導の学術総会として運営された。第 54 回学術総会(佐々木 成総会長)も学会主導のもと、プログラム委員会は富田公夫次期総会長が委員長、実務委員会は佐々木 成総会長が委員長を担当し円滑な運営を行っている。

(2) 第 55 回学術総会(富田公夫総会長)は日本腎臓学会の単独開催とし、プログラム委員長は富野康日己次期総会長、実務委員会委員は富田公夫総会長が担当する。

2) 学術総会長の公募(承認事項)議事-8

第 56 回学術総会長の選定から公募制を採用した。平成 22 年度は第 57 回、第 58 回学術総会長の公募を行い、理事会の審議を経て下記候補者の推薦があり、全会一致で承認された。

第 57 回(平成 26 年度)学術総会長候補者 渡辺 毅(福島県立医科大学 内科)

第 58 回(平成 27 年度)学術総会長候補者 松尾清一(名古屋大学 内科)

1-11. 財務委員会

草野英二委員長から財務委員会の報告があった。

1) 平成 22 年度収支決算の件(承認事項)議事-2

(1) 平成 22 年度の収支は、事業活動収入額 432,992,485 円に対して事業活動支出額は 364,950,763 円であり、59,041,722 円の黒字であった。

(2) 事業活動収入の主な事項として、①正会員の増加により会費収入が予算に対して 190 万円増加したこと、②末期腎不全小冊子の寄付金額が予定を下回ったこと、③雑収入は主として印税収入であり予算額を上回ったが、前年度に比べると約 1,300 万円下回ったこと、④電算化積立金会計から 260 万円、専門医特別会計から 3,000 万円の繰入金収入があったこと、⑤事業活動収入合計額は前年度とほぼ同程度であったことが報告された。

(3) 事業活動支出の主な事項として、①学術総会のその他支出の予備費として計上していた金額を大幅に上回る余剰金(学術総会から約 3,350 万円、東部学術大会から約 100 万円の本部納付金)があったこと、②腎臓病療養指導のための講習検討会について継続検討中のため実施されなかったことにより支出がなかったこと、③末期腎不全小冊子は寄付収入が少なかったが制作部数も少なかったため支出額も予算額 1,200 万円に対し 400 万円と少なかったこと、④日本腎臓学会・バクスター奨学金は予算額 300 万円に対して、応募者が少なかったため 150 万円であったこと、⑤委員会旅費は学術集会、各研究会に合わせて開催することが多かったため、予算額を大幅に下回ったこと、⑥租税公課として、印税は減少したが寄付その他の増加により全体としてはやや増加し、約 1,029 万円を納税したこと、⑦事業活動支出合計額は、昨年度より約 1,000 万円減少したことが報告された。

(4) 平成 22 年度の会費納入状況は 91.88 %であり、ほぼ例年通りであった。

(5) 内部留保率は 21.75 %と適正であった。

2) 平成 22 年度業務・会計監査の件(監査報告)議事-3

御手洗哲也監事から、平成 23 年 4 月 22 日(金)に監査を実施し「事業および会計とも適正である」旨の報告があった。また、平成 23 年 4 月 15 日に実施された公認会計士内川清雄事務所による「適正」との「独立監査人の監査報告書」が紹介された。

以上の説明について、槇野博史理事長から平成 22 年度収支決算について意見を求めたが異論がなく、全会一致で承認された

6. 平成 23 年度事業計画案の件(承認事項)議事-4

守山敏樹幹事長から平成 23 年度事業計画が提案され、審議の結果全会一致で承認された。

7. 平成 23 年度収支予算案の件(承認事項)議事-5

草野英二委員長から平成 23 年度収支予算案の提案があった。

1) 会計基準について、平成 22 年度は従来 16 年基準により財務諸表を作成していたが、一般社団法人への移行のためには 20 年度基準が義務付けられるため、平成 23 年度予算案は 20 年度基準に変更し作成した。

2) 一般社団法人への移行に際し、税の優遇を得て形成した公益目的財産(純資産)を公益のために支出する必要があり、公益目的財産額が零になるまでの公益目的支出計画を策定することが定められている。そのためには、①公益目的財産額を確定し、②平成 20 年度会計基準に基づき、個々の事業ごとに区分経理し、事業ごとの収入と費用を把握し、③いずれの事業を、支出計画の実施事業にするか決定し、申請方法を決定する必要がある。

3) このため、実施事業会計として「研究調査奨励事業」、「出版・啓発事業」、「交流事業」、その他事業会計とし

て「学術集會事業」「専門医制度事業」および法人会計に区分した。これに伴い。従来の一般会計，特別会計の区分は存在しない。

以上の提案に対して異議はなく，全会一致で平成 23 年度取支予算は承認された。

8. 新入会会員の件(報告事項)

守山敏樹幹事長から 212 名の新入会申し込みがあったことが報告された。

9. 平成 26 年度第 44 回東・西部学術大会会長候補者推薦の件(承認事項)議事-9

平成 26 年度第 44 回東部学術大会会長として内田俊也氏(帝京大学・内科)，および西部学術大会会長として中西健氏(兵庫医大・内科)が，それぞれと東西部大会幹事会から推薦され，これを承認した。

10. 閉会の辞

榎野博史理事長から，総会進行への謝辞が述べられ閉会した。

以上

11. 引き続いて，

1) 佐々木 成第 54 回学術総会長から挨拶及び報告があった。

①東日本大震災のため総会開催の可否について，榎野博史理事長，秋澤忠男日本透析医学会会長と協議の上，開催することを決定した。一部の海外招聘者が来日を取り消したがプログラムに大幅な変更はない。

②会員懇親会は質素な形式が開催するのでご出席いただきたい。

③市民公開講座は 6 か所で行うこととした。

2) 富田公夫第 55 回学術総会長から挨拶及びの報告があった。

①平成 24 年 6 月 1 日(金)～3 日(日)，パシフィコ横浜において日本腎臓学会単独で開催する。メインテーマは「夢・創造—Basic science から地域連携まで—」とした。学術総会プログラム委員長は富野康日己次期総会長・実務委員長は富田公夫総会長が担当する。

3) 榎野博史理事長から，下記の賞が授与された。

- ・名誉会員証 石川 勲，北本 清，清水不二雄 3 氏
- ・上田賞 阿部 裕，尾前照雄，杉野信博，新島端夫 4 氏
- ・優秀論文賞 蓮池由起子，大津尚子，金子修三，浅沼克彦，永路正明 5 氏
- ・大島賞 浅沼克彦，佐藤 稔 2 氏

平成 23 年 6 月 15 日

社団法人 日本腎臓学会

議事録署名人

議長 榎野博史 ㊟

署名人 富野康日己 ㊟

署名人 渡辺 毅 ㊟